

知創生

学生の声

哲学のリーディング大学院生として、他分野との根本的な考え方の違いに戸惑うことがいまだに多くあります。他分野との溝を、議論を通じて埋めていく作業こそが一番の課題であり、同時に魅力でもあると感じています。



第1期生
山田 修司
文学研究科
文化科学専攻

まだリーディング大学院に参加したばかりで戸惑うことが多いですが、ここに新しいことを始める環境があるということはしっかりと感じることができます。これからどんどん新しいことにチャレンジし、実りのある大学院生活にしていきたいと考えています。



第1期生
小林 龍一
工学研究科
機械システム
デザイン工学専攻

リーディング大学院プログラムが始まってからまだ6か月程度ですが、この短期間に理学研究科に在籍するだけでは触れることができない研修や授業を経験し、他の研究学問との交流が増えたことが自身にとって大きな収穫と感じています。



第1期生
柳田 泰宏
理学研究科
地学専攻

[プログラム開始年度]平成25年度から開始

[募集受講生数]約30名/年

[プログラム担当者数]67名

専任教員10名、東北大学53名、その他4名

[参加部局]12部局・21専攻科

<文学研究科>文化科学、人間科学、歴史科学

<法学研究科>法政理論研究

<経済学研究科>経済経営学

<理学研究科>天文学、地球物理学、地学

<工学研究科>機械システムデザイン工学、ナノメカニクス、航空宇宙工学、量子エネルギー工学、電気エネルギーシステム、化学工学、土木工学、都市・建築学、技術社会システム、バイオロボティクス

<情報科学研究科>応用情報科学

<環境科学研究科>環境科学

<医工学研究科>医工学

<災害科学国際研究所>

<流体科学研究所>

<東北アジア研究センター>

<学術資源研究公開センター>

[プログラムコーディネーター]

教授 湯上 浩雄

(工学研究科 機械システムデザイン工学専攻)

[特記事項]

・本学に新設された災害科学国際研究所の先進的な研究成果に基づいて、災害科学国際研究所、工学研究科、理学研究科、文化系研究科等が共同して教育プログラムを提供

・修了者には自専攻が授与する博士学位記に「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」を付記

東北大学、知の結集
先進の「安全・安心」が社会を築く

東北大学リーディングプログラム推進機構 グローバル安全学教育研究センター

リーディング大学院担当事務局

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-11

東北大学 工学研究科 総合研究棟9F

E-mail:gs-koho@bureau.tohoku.ac.jp TEL.:022-795-4926

※お問い合わせはメールでお願いいたします。

<http://www.g-safety.tohoku.ac.jp/>

グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

Inter-Graduate School Doctoral Degree Program on Science for Global Safety

グローバル安全学リーダー人材の育成 —グローバルデザスターから人命・社会を守る—

東北地域に甚大な被害を与えた東日本大震災は、地理的・社会的にグローバルに波及した災害であり、その影響は甚大で長期にわたる時間スケールでの復興が必要であり、被災地域の社会基盤や産業基盤の本格回復には至っていません。さらには原子力発電所の再稼働を含めたエネルギー政策の大転換を議論せざるを得ない状況となっています。本プログラムでは、博士課程前期後期一貫教育による人材育成プログラムで、部局の枠を超えて文系・理系を含む学生(リーディングプログラム院生)集団で教育を行い、東日本大震災に代表されるグローバルデザスターから人命・社会・産業を守ることに貢献できるグローバル安全学リーダーをアカデミアのみならず、世界的企業や国際機関などの多様な分野に輩出することを目指します。



▲東日本大震災被災地の現場における研修例

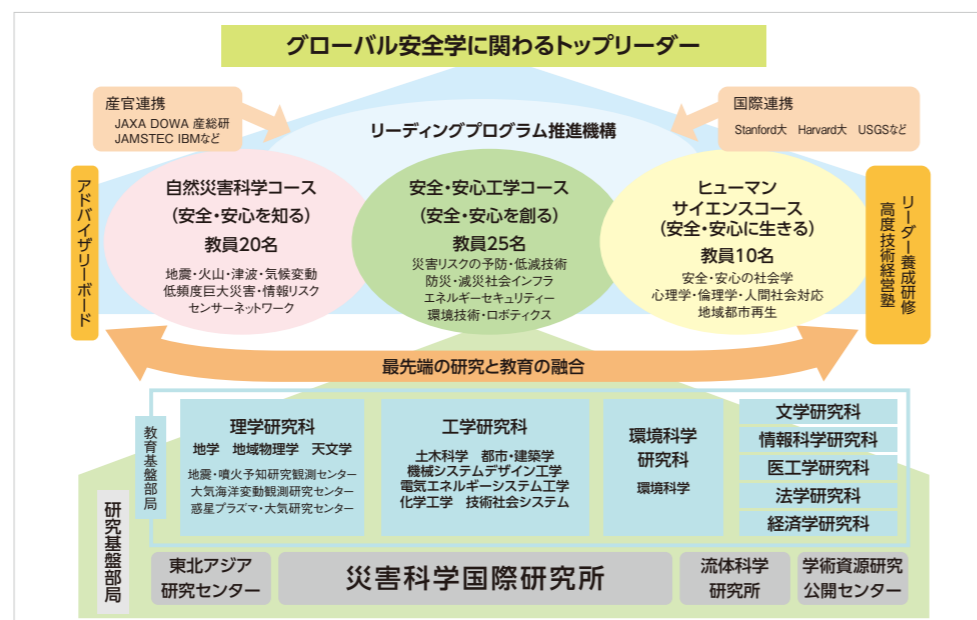
育成する人材像

—人文学の素養と明確なビジョンをもつリーダー—

東日本大震災が明らかにしたことは、防災目的手段の社会合意形成の欠如や、リーダー層の危機管理能力の欠如です。本プログラムでは、人文学の素養、国際性、倫理観、そして明確なビジョンをもち、学術に立脚した確かな知識をもとに自ら考え実行できる能力を有すると共に、我国や世界が直面する、巨大地震や津波などの自然災害あるいは気候変動、エネルギー問題などの多様な事象に対応できるグローバル安全学分野のトップリーダー人材を目指します。

多様な部局が参加した文理融合教育 —災害科学国際研究所が先導する教育研究—

本プログラムの特徴は、本学に新設された災害科学国際研究所が「実践的防災学」に基づく学際的かつ先端的な教育研究を行うと共に、災害科学国際研究所、工学研究科、理学研究科、環境科学研究科、文学研究科、法学研究科、経済学研究科等が参画することにより、震災からの復興現場での活動や、世界的研究活動を通じて人材を育成することです。さらに人類社会共通の課題である気候変動や、原子力事故に代表される巨大システム事故への対応、世界的なエネルギーセキュリティ問題等の解決に貢献できる人材の育成に取組を展開していくことにあります。



12部局21専攻科が参画した文理融合型教育によるグローバル安全学トップリーダーを育成します

安全安心を「知る」「創る」「生きる」教育

—金平糖型人材の育成を目指して—

本プログラムでは、科学・技術・人文社会科学の研究者が連携して教育を行い、「自然災害科学コース」「安全・安心工学コース」「ヒューマンサイエンスコース」の3つのコースにおいて、以下の能力を持つ人材(金平糖型人材)の育成を目指します。

- 先鋭化された研究を通じた専門能力の核(コア)を有すると共に、多様な課題解決のための応用能力(シェル)を有する人材
- 課題設定と問題解決、研究開発、事業展開、グランドデザインなどの筋道を自ら設定して実践する能力を有する人材
- 事象を俯瞰して整理し、自身の考えを的確に相手に伝える能力を有する人材
- 国際舞台でリーダーシップを発揮できる資質を有する人材
- リーダーとしての倫理観と責任感を有する人材



専門知識と多様な分野への展開力と、リーダーとして必須の能力を持つ「金平糖型」人材を育成します

グローバル安全学教育研究センターで 研究科を超えて一体で修学

リーディングプログラムに選抜された学生は、リーディングプログラム院生としてセンターに所属して、Convergence Labにおいて異分野学生との交流の中で切磋琢磨することで、リーダーとして成長します。

本センターには、部局や専攻を跨いで「安全安心を知る」、「安全安心を創る」、「安全安心に生きる」という3ユニットに分かれた教員(産官からの教員を含む)が属し複数メンター制度のもとで、学生が主体的に形成するユニット横断的な修学研究チーム"Convergence Lab"の指導にあたります。

